



OYOYO

# 大淀町 総合計画

第4次



～はじめに～

このたび、大淀町のまちづくりにおける最上位計画である「第4次大淀町総合計画」を策定しました。これは、今後10年間の町政運営の基本方針としての役割と性格を持つものであり、いわば町政運営の羅針盤となるものです。



近年、人口減少や少子高齢化が本格的に進んでいることを踏まえて、その現実を受け入れた上で、まちや地域を維持し、持続可能なものとするために講じることが必要な施策を検討し、目標を定めました。

今回の総合計画では、まちづくりの基本理念・将来像を「来たい、住みたい、住み続けたいまち 大淀町 ～次世代へつなぐ 共創のまちづくりをめざして～」と定め、まちづくりに関わる全ての主体が「協働」「共有」「共感」の理念を大切にしながら、相互理解・相互協力によりまちづくりを進め、次世代を担う子どもたちに住み良い、魅力あふれるまちとしてつないでいくことを目標としています。

計画期間中である平成33年には、町制100周年を迎えます。これまで先人たちが築いてきた本町を、特性や資源を最大限に活かしつつ「夢と誇りの持てるまち」としてさらに磨きをかけ、次の世代に継承していくため、町議会、関係各位のご協力を賜りながら、本計画の実現に向けて積極的に取り組んでまいり所存です。

本計画の策定にあたり、ご協力を賜りました総合計画策定審議会委員、町議会議員、まちづくり住民会議の皆様、アンケート調査にご協力を頂きました住民の皆様並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

今後とも町政に対する一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年 3月

大淀町長 岡 下 守 正





# 目次

## 序論

第1章 計画策定の概要 .....	2
1 計画策定の趣旨 .....	2
2 計画策定における留意事項 .....	2
第2章 計画の構成と期間 .....	3
第3章 大淀町の概要と特性 .....	4
1 大淀町の概要 .....	4
2 町民ニーズの動向 .....	9
3 大淀町の特性と地域資源 .....	17
第4章 新たな時代潮流 .....	20
第5章 大淀町の課題 .....	23
第6章 計画策定の流れ .....	25

## 第1部 基本構想

第1章 大淀町の将来像 .....	28
1 まちづくりの基本理念・将来像 .....	28
2 まちづくりの基本目標 .....	29
3 将来人口の見通し .....	30
第2章 地域形成の方向 .....	31
1 土地利用の基本構成 .....	31
2 地域形成の骨組み .....	33

<b>第3章 施策の体系及び施策の大綱</b> .....	<b>39</b>
1 施策の体系 .....	39
2 計画推進のために .....	40
3 施策の大綱 .....	42

## 第2部 前期基本計画

<b>計画推進のために</b> .....	<b>48</b>
1 人口減少社会に対応したまちづくり .....	48
2 様々な主体による協働と連携のまちづくり .....	50
3 情報発信で知ってもらうまちづくり .....	53
4 計画的・効率的な行財政運営のまちづくり .....	56
5 広域的な連携と協力によるまちづくり .....	60

### 第1章 すこやかで安心できる暮らしのために .....

#### <保健・医療・福祉 分野>

1 保健・医療 .....	62
2 子育て支援、少子化対策 .....	65
3 高齢者福祉 .....	68
4 障がい者(児)福祉 .....	70
5 地域福祉 .....	73
6 社会保障 .....	75

### 第2章 いきいきとして活力あるまちづくりのために .....

#### <産業 分野>

1 雇用の創出と新しい産業 .....	77
2 農業 .....	79
3 林業 .....	81
4 工業 .....	83

5	商業・サービス業	85
6	観光	87
<b>第3章 まちの基盤づくりと安全・快適な暮らしのために</b>		<b>90</b>
<b>&lt;都市基盤・生活環境 分野&gt;</b>		
1	都市拠点の形成	90
2	交通ネットワークの形成	92
3	住宅・市街地整備	95
4	環境保全と環境美化、景観・緑化	98
5	公園・緑地	100
6	上下水道	101
7	廃棄物処理等	104
8	斎場・墓地	106
9	消防・防災	107
10	防犯・交通安全	110
<b>第4章 うるおいある人間性豊かなまちづくりのために</b>		<b>112</b>
<b>&lt;人権・教育・文化 分野&gt;</b>		
1	人権の尊重	112
2	男女共同参画	114
3	学校教育	116
4	就学前教育	118
5	生涯学習・生涯スポーツ	120
6	歴史・文化・芸術	123
<b>第5章 重点プロジェクト</b>		<b>126</b>
1	重点プロジェクトの位置づけ	126
2	重点プロジェクトのテーマ	126
3	重点プロジェクト	128

## 資料編

1 計画策定の経緯.....	140
2 第4次大淀町総合計画についての諮問.....	143
3 第4次大淀町総合計画についての答申.....	144
4 大淀町総合計画策定審議会条例.....	146
5 大淀町総合計画策定審議会 委員名簿.....	148
6 大淀町総合計画策定推進本部会議設置要綱.....	149
7 大淀町総合計画策定推進本部会議 委員名簿.....	151
8 大淀町総合計画策定推進本部会議 専門部会 部会員名簿.....	152
9 成果指標一覧.....	154
10 用語解説.....	167

※本文中、(\*) のついている用語には、解説をつけています。

# 序論

---

# 第1章 計画策定の概要

## 1 計画策定の趣旨

総合計画とは、よりよいまちづくりを総合的かつ計画的に推進するための町政の基本方針としての役割と性格を持つものです。町の最上位計画であり、この基本方針にのっとりまちづくりを行っていくこととします。

本町では、平成19年に第3次大淀町総合計画を策定し、この中で掲げた将来像である「ひともまちも輝く大淀町～安全で住みよい活力あるまちをめざして～」の実現のために、平成28年度を目標年次として計画的にまちづくりを進めてきました。

昭和50年代初めから住宅開発が進められ、ベッドタウンとして発展してきた本町も、国勢調査において平成12年をピークに、それ以降、人口減少局面へと突入しました。長期的なビジョンを持ってまちづくりを進めていくことの重要性があらためて認識されるとともに、国と地方公共団体が危機感を持ち、人口減少克服と地方創生に取り組むことが求められています。

このような状況をふまえ、本町では第3次大淀町総合計画の計画期間の満了に伴い、町民と行政が一体となってまちづくりに取り組み、大淀町に生まれてよかった、住んでよかった、そしてこれからも住み続けたいと誰もが感じられるまちにするため、今後10年間の指針となる「第4次大淀町総合計画」をここに策定するものです。

## 2 計画策定における留意事項

本計画は、住民アンケート調査、まちづくり住民会議、策定審議会、パブリックコメント<sup>(\*)</sup>等を通じて、町民視点での意見をひろいあげながら、町民参画・協働での策定を行い、みんなで作り上げる総合計画として内容の充実をめざしました。

また、前計画における達成状況を確認する視点も取り入れ、町職員全員による計画策定の検討、立案を行い本計画に反映するとともに、町としてどのような理念でまちづくりを進めていき、まちづくりの主な課題にどのような方針で取り組むのか検討しながら、本計画を策定しました。

## 第2章 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」と「基本計画」の2部で構成します。その内容と計画期間は、次のとおりです。

### ■ 基本構想

基本構想は、町のめざすべき将来像とそれを実現するための基本方針や施策の大綱等を示すものです。

計画期間は、平成 29 年度から平成 38 年度までの 10 年間とします。

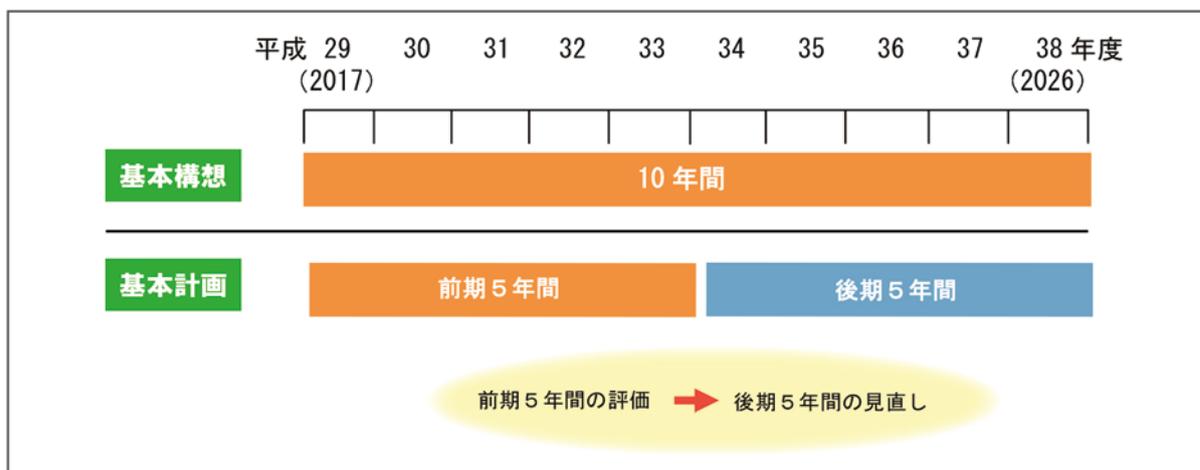
### ■ 基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、その実現を図るために必要な施策等を体系的に示すものです。

基本計画期間は、比較の見通しの立ちやすい5年間で推進期間として、財政事情なども勘案し、具体的な実効性のある計画として定めるものとし、このうち前期基本計画は平成 29 年度を初年度とし、平成 33 年度を目標年度とします。

また、基本計画には施策ごとに成果指標（ベンチマーク）<sup>(\*)</sup>を定め、定期的な点検を行い、常に時代の流れや町民の意向、施策の進捗状況度合等に応じてマネジメントできる仕組みの確立を図ります。

第4次大淀町総合計画の構成と期間



## 第3章 大淀町の概要と特性

### 1 大淀町の概要

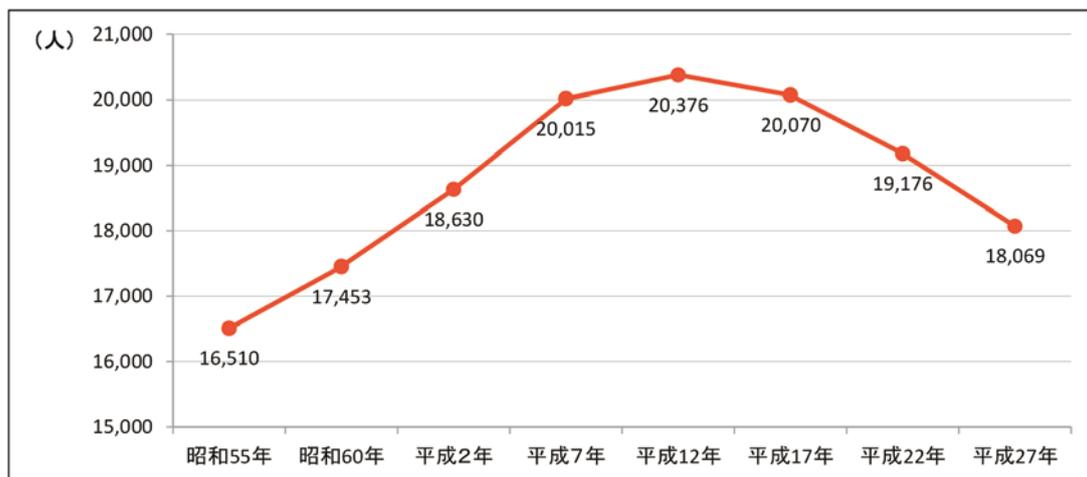
#### (1) 人口の推移

本町の総人口の推移をみると、平成12年に総人口のピークを迎えました。昭和55年以降、急激な増加を示していましたが、平成12年以降は減少に転じています。平成27年の国勢調査の結果によると、18,069人でしたが、これは人口がピークに達した平成12年と比べて、約11.3%の減少となっています。

また、年齢3区分別人口の推移をみると、生産年齢人口（15～64歳）は平成12年まで増加傾向にあり、平成7年から平成12年まで13,000人以上となっていました。平成17年以降は再び減少傾向に転じ、平成27年には10,651人と、ピークであった平成12年からおよそ20%の大幅な減少となりました。年少人口（15歳未満）については、昭和60年をピークとして減少傾向にあります。平成27年には2,101人となっており、昭和60年と比べて約43.2%の減少となっています。

これに対して、老年人口（65歳以上）は一貫して増加傾向にあります。平成12年には老年人口が年少人口を上回り、平成27年には、老年人口が年少人口の約2.5倍となっています。また、高齢化率も年々上昇し、平成27年には29.4%となっています。

総人口の推移



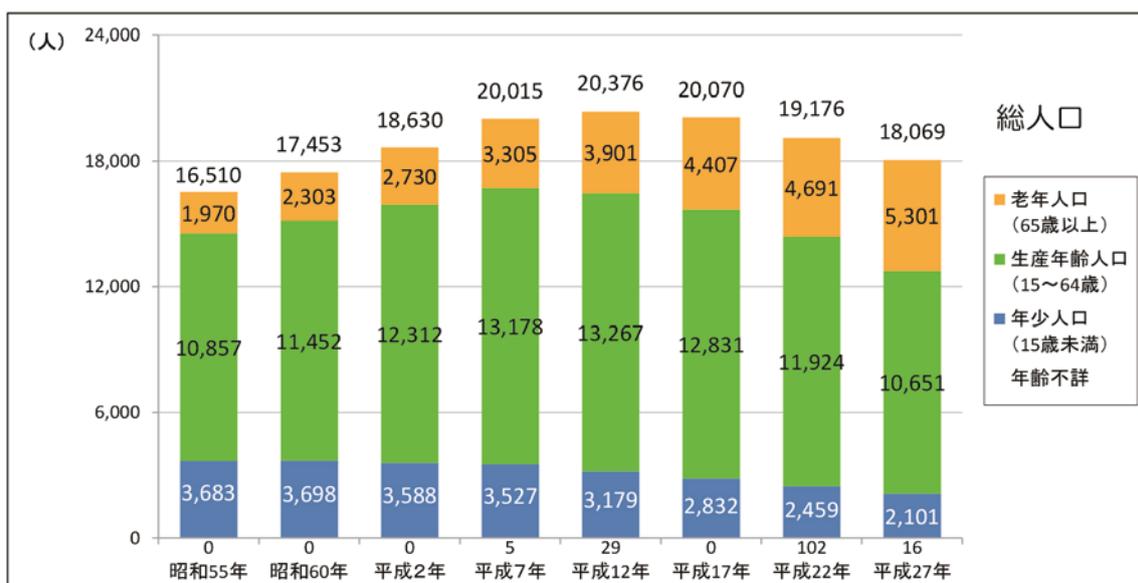
資料：国勢調査

## 年齢3区分別人口の推移

(単位：人)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
総人口（年齢不詳を含む）	16,510	17,453	18,630	20,015	20,376	20,070	19,176	18,069
年少人口 （15歳未満）	3,683 (22.3%)	3,698 (21.2%)	3,588 (19.3%)	3,527 (17.6%)	3,179 (15.6%)	2,832 (14.1%)	2,459 (12.9%)	2,101 (11.6%)
生産年齢人口 （15～64歳）	10,857 (65.8%)	11,452 (65.6%)	12,312 (66.1%)	13,178 (65.9%)	13,267 (65.2%)	12,831 (63.9%)	11,924 (62.5%)	10,651 (59.0%)
老年人口 （65歳以上）	1,970 (11.9%)	2,303 (13.2%)	2,730 (14.7%)	3,305 (16.5%)	3,901 (19.2%)	4,407 (22.0%)	4,691 (24.6%)	5,301 (29.4%)
年齢不詳人口	0	0	0	5	29	0	102	16

注：端数処理を四捨五入で行っている関係上、百分率（%）表示の合計が100にならない場合があります。



資料：国勢調査

(2) 地理・交通

本町は、竜門山地の西よりに位置し、西は御所市・五條市、北は高取町、南は下市町、東は吉野町に接しており、面積は38.1km<sup>2</sup>、東西約11km、南北約5kmとなっています。地形的には全体として北東部で標高が高く約600mの起伏の大きな山地が連なっています。中央部では標高220m～260m前後の台地の地形となっており、南西や南に向かって標高が低下して標高約130mの吉野川(紀の川)河谷に連なっています。丘陵地や台地の一部では、宅地造成やゴルフ場開発などによる地形改変が行われており、これらの土地は、造成により尾根・谷を切土・盛土され平坦地化されています。

道路網は、国道169号、309号、370号及び7路線の県道が広域的幹線として町と周辺地域を結び、町道が町内を結んでいます。都市計画道路は12路線ですが、うち5路線は未整備です。

鉄道は、近鉄吉野線が町内を通り、薬水駅、福神駅、大阿太駅、下市口駅、越部駅、六田駅の6つの駅があり、町の中心は下市口駅です。近鉄吉野線は大阪阿部野橋駅に直通し、橿原神宮前駅で奈良・京都方面に連絡しています。また、吉野口駅ではJR和歌山線に連絡し、和歌山、高田、王寺方面に連絡しています。

路線バスは、黒滝村や天川村への中継地点ともなる下市口駅及び大淀バスセンターから、町内各地域及び周辺市町村を結ぶ路線が発着しています。また、平成14年度から運行していた福祉バス(ふれあいバス)を再編し、平成28年度よりコミュニティバス(よどりバス)<sup>(\*)</sup>と、デマンド型交通(よどりタクシー)<sup>(\*)</sup>として、運行しています。



### (3) 産業

本町の農業は、稲作・果樹・野菜の3本柱から構成されますが、特に果樹（日本梨）が主力農産物となっており、全経営体数（販売農家）の約3分の1を占めます。都市圏への近さを利用して、消費者への直接販売や観光農園を手がける農家が目立つのが特徴です。梨以外にも、古くから伝わるお茶の栽培も行われています。また、農地の有効活用や、農業生産の合理化・効率化のために集落営農組織を立ち上げるグループも出てくるなど、新たな取り組みが進められています。平成13年にオープンした道の駅・吉野路大淀iセンターは、吉野地域の情報発信拠点としての役割を持つ一方で、野菜をはじめとする地場産物などを販売しており、多くの来訪者に情報と特産品などを提供し好評を得ています。

林業を取り巻く環境は厳しく、木材需要の低迷、林業経費の高騰、労働力の劣弱化などに起因して、林業生産意欲と活動が停滞しています。このような中、伐採、造林、保育などの施策が滞りがちになり、放置同然の森林の増加への対応が大きな課題になっています。また、林業後継者が育たない現実も林業の低迷に拍車をかけています。森林整備の遅れは、経済的な価値の低下のみならず、森林の荒廃をも招く恐れもあることから、重視すべき機能の発揮を考慮した適正な森林整備が急務となっています。このような状況の中、平成27年に木材由来の資源「木質バイオマス<sup>(\*)</sup>」による発電所が本町で稼働を開始しました。発電能力は6,500kwで、およそ12,000世帯分の電力を供給できます。燃料は間伐材や未利用木材が50%を占め、製材する際に出る端材やダム流木も利用されます。

商業は、町内に大型店等が進出し、吉野地域の商業の中心地としての一面をみせていますが、商店街等の機能低下が著しくなっています。平成26年の商業統計調査の結果によると、事業所数は172事業所、従業者数は1,081人、年間商品販売額は約213億円となっており、近年、事業所数と従業者数はともに減少傾向にあります。年間商品販売額はやや回復の兆しがみえています。

町内の小売業・卸売業の推移

	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)
平成16年	273	1,436	274
平成19年	265	1,485	280
平成24年	200	1,169	188
平成26年	172	1,081	213

資料：商業統計調査

工業は、林業との関連が深い「木材・木製品製造業」と「家具・装備品製造業」の木材に関連する産業が主要なものとなっています。平成 26 年の工業統計調査の結果によると、事業所数は 36 事業所、従業者数は 685 人、製造品出荷額等は約 120 億円となっています。近年、事業所数は減少傾向にあります。従業者数、製造品出荷額等はともに微増傾向にあります。

町内の製造業の推移

	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)
平成 19 年	44	767	118
平成 20 年	45	689	118
平成 21 年	39	641	102
平成 22 年	35	615	86
平成 23 年	46	679	83
平成 24 年	42	668	116
平成 25 年	41	697	118
平成 26 年	36	685	120

資料：工業統計調査

観光は、特産品の梨狩りをはじめ、世尊寺や泉徳寺、桧垣本八幡神社といった寺社仏閣や古墳めぐり、ハイキングなどにより町外からの誘客を図っています。道の駅・吉野路大淀 i センターは、食事休憩などでマイカーや観光バスで訪れる方をはじめとする大勢の観光客等に利用されています。その他、本格的なゴルフコースが 3 箇所あるほか、吉野川を望む景観やお茶の産地である中増地区などで、心癒される里山風景が広がり、これらも観光・レクリエーション資源としてあげられます。

## 2 町民ニーズの動向

本計画の策定にあたって、平成 27 年 9 月に満 19 歳以上の町民の中から無作為に抽出した 2,000 人を対象にアンケート調査を実施しました。有効回答 985 票、有効回収率 49.3%でした。

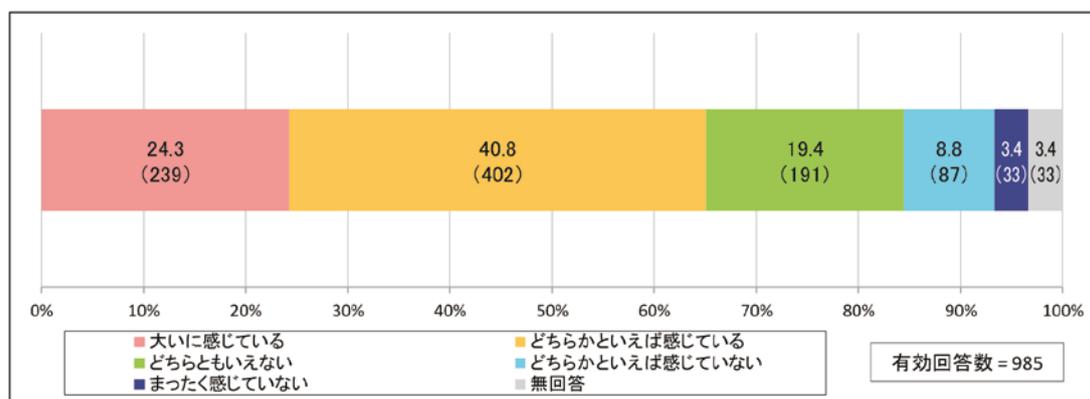
また、これからの大淀町を背負っていく中学生と高校生を対象として、同様に意識やニーズ動向についてのアンケート調査もあわせて行いました。これらの結果からまちの現状評価や今後期待するまちづくりの方向性など、新たなまちづくりに向けた町民ニーズをまとめると次のとおりです。

### (1) 町民のまちへの愛着度と今後の定住意向について

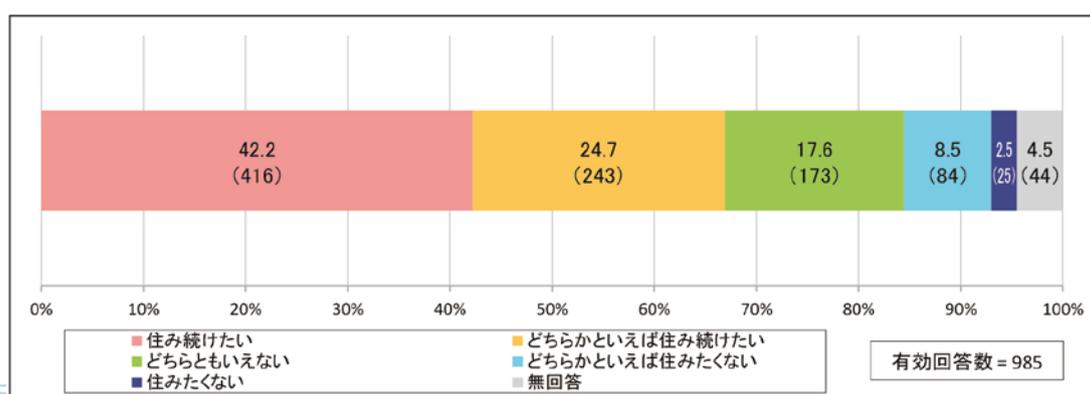
大淀町に愛着を「大いに感じている」と「どちらかといえば感じている」をあわせた“愛着を感じている”と回答した町民はおよそ 65%、大淀町に今後も「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた“住み続けたい”と回答した町民はおよそ 67%となりました。また、高校生では“愛着を感じている”が 55.2%、“住み続けたい”が 36.1%で、中学生では“愛着を感じている”が 55.1%、“住み続けたい”が 37.9%となっており、町民全体の愛着度、定住意向も高いとはいえない中、これからの大淀町を担う若者世代ではより低い結果となっています。

これらのことから、人口流出を食い止め、定住を促すためにも愛着度や定住意向を高めるための施策が必要とされています。

まちへの愛着度



今後の定住意向



注：カッコ内は回答数

## (2) まちの各環境に関する満足度

まちの各環境について、現在どの程度満足しているかを把握するため、まちの基盤づくり、安全・安心・快適な暮らしづくり、人間性豊かな暮らしづくり、活力のある暮らしづくり、すこやかな暮らしづくりの5分野 42 項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない・わからない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化で評価点（満足度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点）を算出しました。

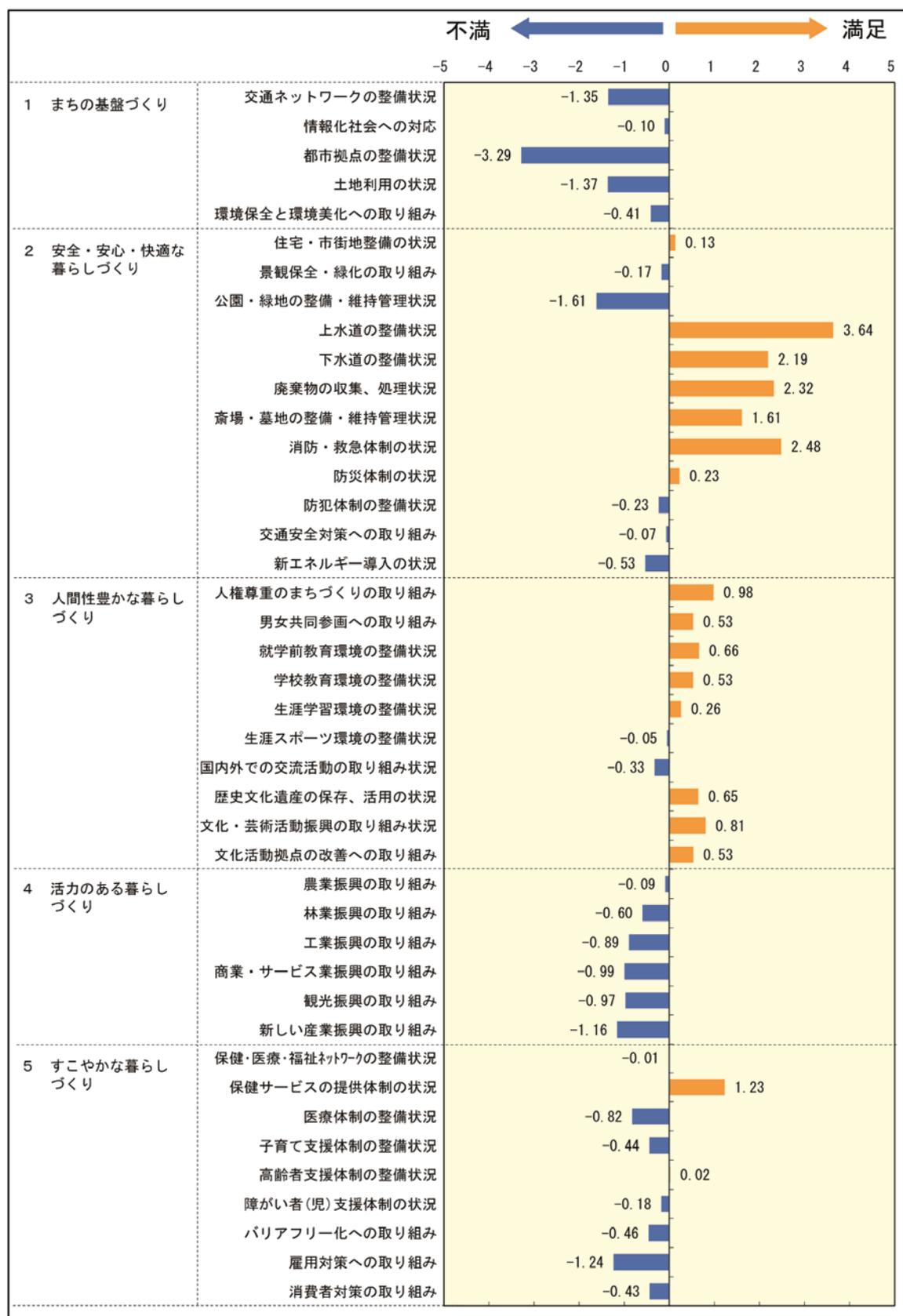
その結果、満足度が高い上位 10 項目と、満足度が低い下位 10 項目を一覧にすると下表のとおりでした。満足度が低い項目をみると、上位 3 位は共通して“土地利用”が課題となっていることがわかり、さらに“交通”“産業振興”に対しての満足度が低くなっています。いずれも行政だけでは解決することのできない課題であり、町民や関係団体、企業等を含めた総合的な取り組みが課題となっていることがうかがえます。

- 満足度が最も高い項目は「上水道の整備状況」。次いで「消防・救急体制の状況」、「廃棄物の収集、処理状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「都市拠点の整備状況」。次いで「公園・緑地の整備・維持管理状況」、「土地利用の状況」の順。

満足度が高い上位 10 項目	満足度が低い下位 10 項目
上水道の整備状況	都市拠点の整備状況
消防・救急体制の状況	公園・緑地の整備・維持管理状況
廃棄物の収集、処理状況	土地利用の状況
下水道の整備状況	交通ネットワークの整備状況
斎場・墓地の整備・維持管理状況	雇用対策への取り組み
保健サービスの提供体制の状況	新しい産業振興の取り組み
人権尊重のまちづくりの取り組み	商業・サービス業振興の取り組み
文化・芸術活動振興の取り組み状況	観光振興の取り組み
就学前教育環境の整備状況	工業振興の取り組み
歴史文化遺産の保存、活用の状況	医療体制の整備状況

### まちの各環境に関する満足度

(単位：評価点)



### (3) まちの各環境に関する重要度

まちの各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ5分野42項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない・わからない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数値化で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

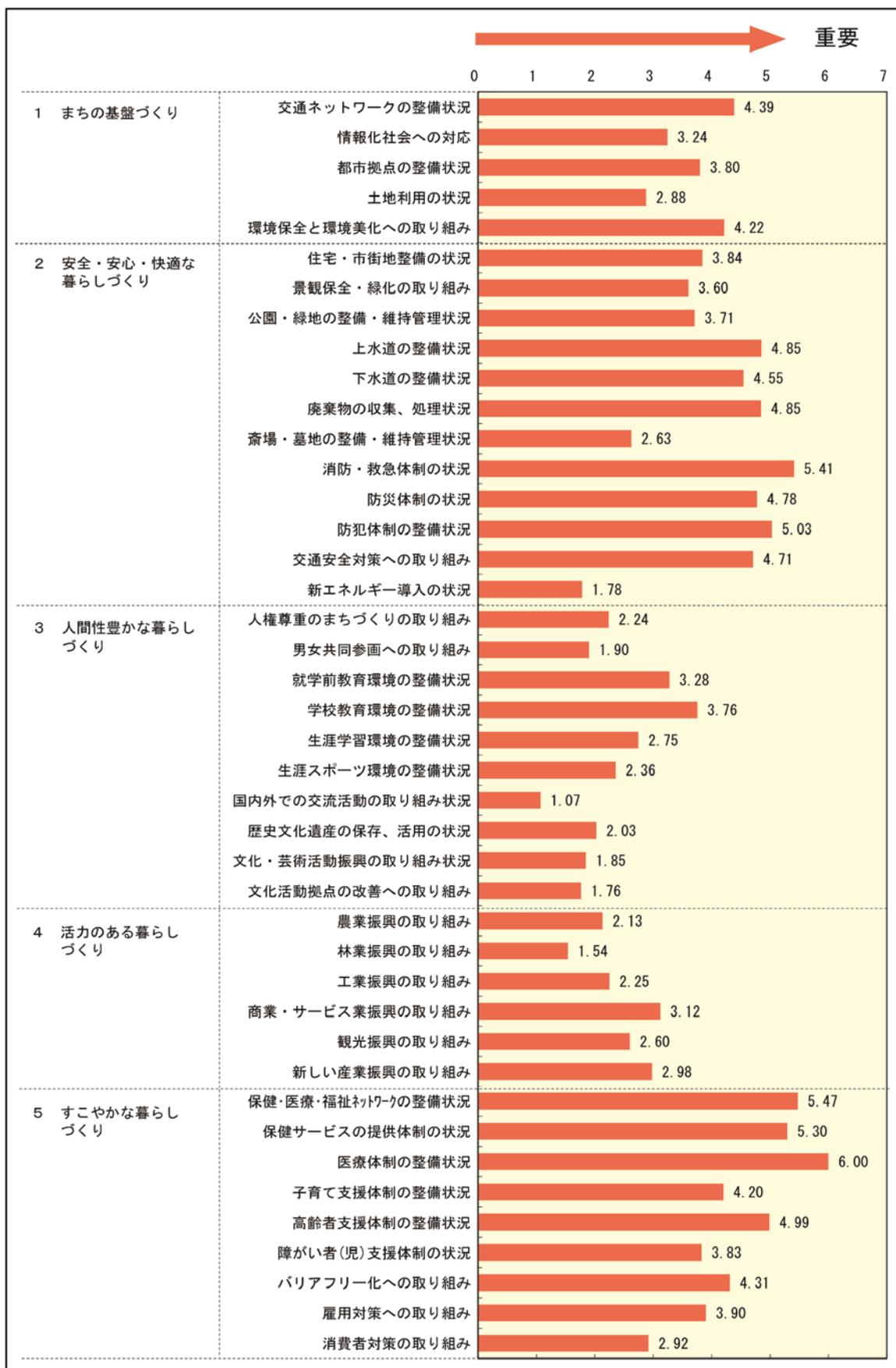
その結果、重要度が高い上位10項目は下表のとおりでした。重要度の高い上位項目をみると、“安全”や“安心”といった住民生活に直接的に関係のある項目への関心が高いといえます。現在の取り組みを振り返り、改善していくことはもちろんのこと、サービス等を利用していなかったり、なじみが薄かったりする町民にどのような取り組みが行われているのかしっかりとわかりやすく周知、広報していくことも大きな課題といえます。

- 重要度が最も高い項目は「医療体制の整備状況」。次いで「保健・医療・福祉ネットワークの整備状況」、「消防・救急体制の状況」、「保健サービスの提供体制の状況」、「防犯体制の整備状況」の順。

重要度が高い10項目	
第1位	医療体制の整備状況
第2位	保健・医療・福祉ネットワークの整備状況
第3位	消防・救急体制の状況
第4位	保健サービスの提供体制の状況
第5位	防犯体制の整備状況
第6位	高齢者支援体制の整備状況
第7位	上水道の整備状況
〃	廃棄物の収集、処理状況
第9位	防災体制の状況
第10位	交通安全対策への取り組み

まちの各環境に関する重要度

(単位：評価点)



(4) 満足度と重要度の相関（優先度）

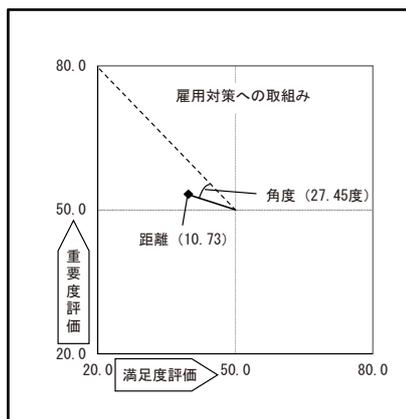
前項まででみてきた満足度と重要度の分析結果をふまえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するためのひとつの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図による数量化〔下記参照〕で優先度（評価点：最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点）を算出しました。

この結果をみると、優先度は、「都市拠点の整備状況」（15.04 点）が第 1 位で、次いで「医療体制の整備状況」（14.97 点）が第 2 位、「交通ネットワークの整備状況」（11.36 点）が第 3 位、以下、「保健・医療・福祉ネットワークの整備状況」（8.00 点）、「公園・緑地の整備・維持管理状況」（7.79 点）、「防犯体制の整備状況」（7.52 点）、「雇用対策への取り組み」（7.46 点）、「バリアフリー<sup>(\*)</sup>化への取り組み」（6.42 点）、「子育て支援体制の整備状況」・「高齢者支援体制の整備状況」（同点 5.93 点）などの順となっています。

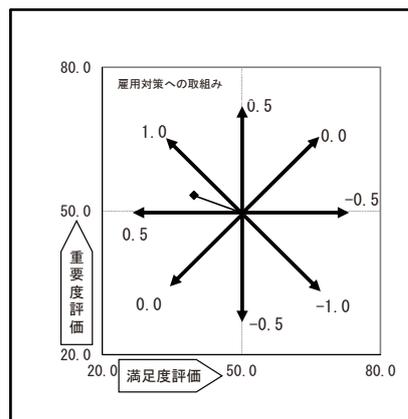
※散布図による評価点（優先度）の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。  
例：「雇用対策への取り組み」→満足度偏差値 39.77…、重要度偏差値 53.23…
- ② ①で算出した偏差値から、平均（中心）からの距離を算出する。  
例：「雇用対策への取り組み」→ $10.73 \dots = \sqrt{(39.77-50)^2 + (53.23-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。  
例：「雇用対策への取り組み」→27.45 度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。  
例：「雇用対策への取り組み」→ $0.6949 = (90-27.45) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。  
例：「雇用対策への取り組み」→ $7.46 = 10.73 \dots \times 0.6949 \dots$

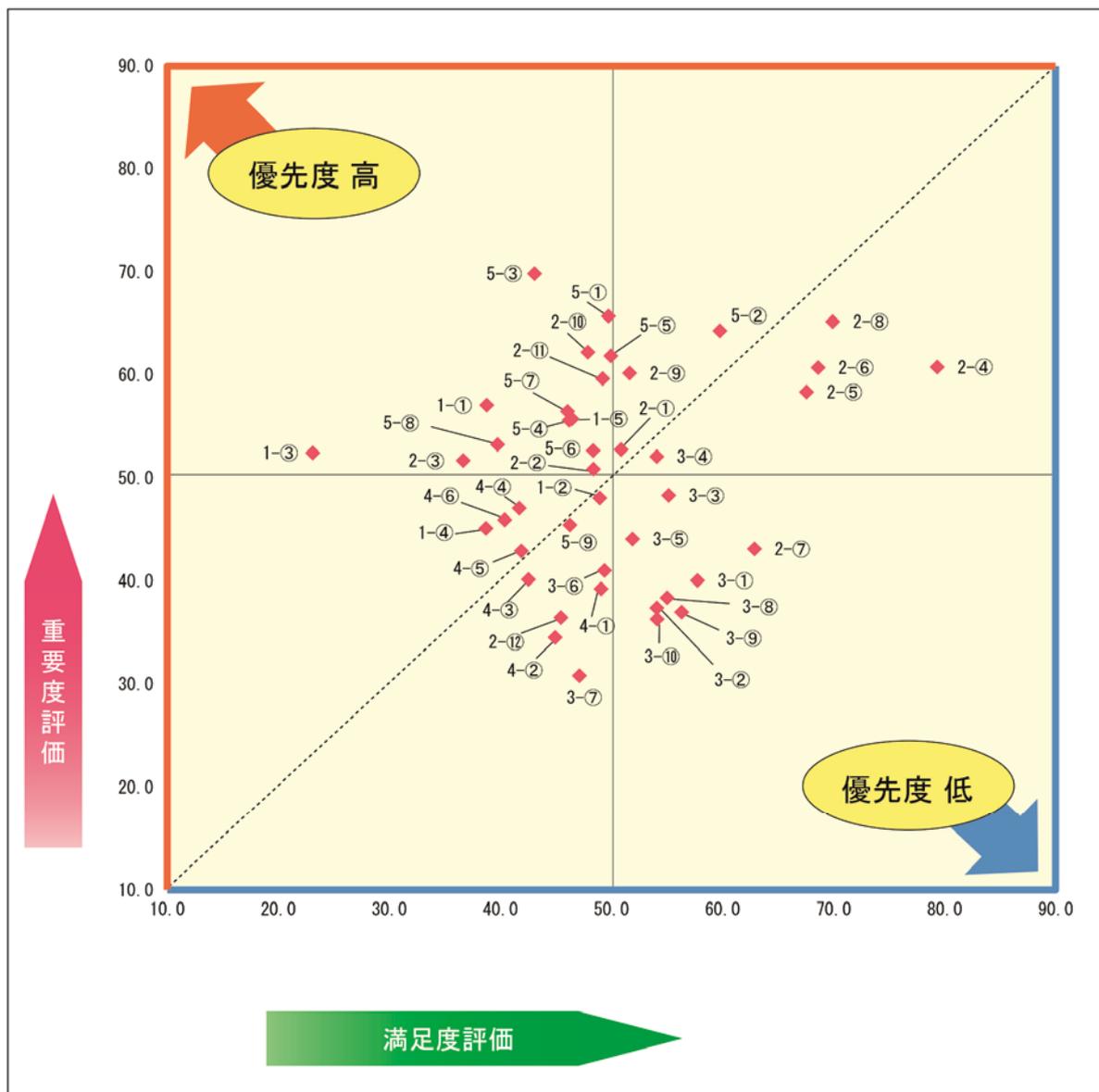
距離・角度



指数の設定



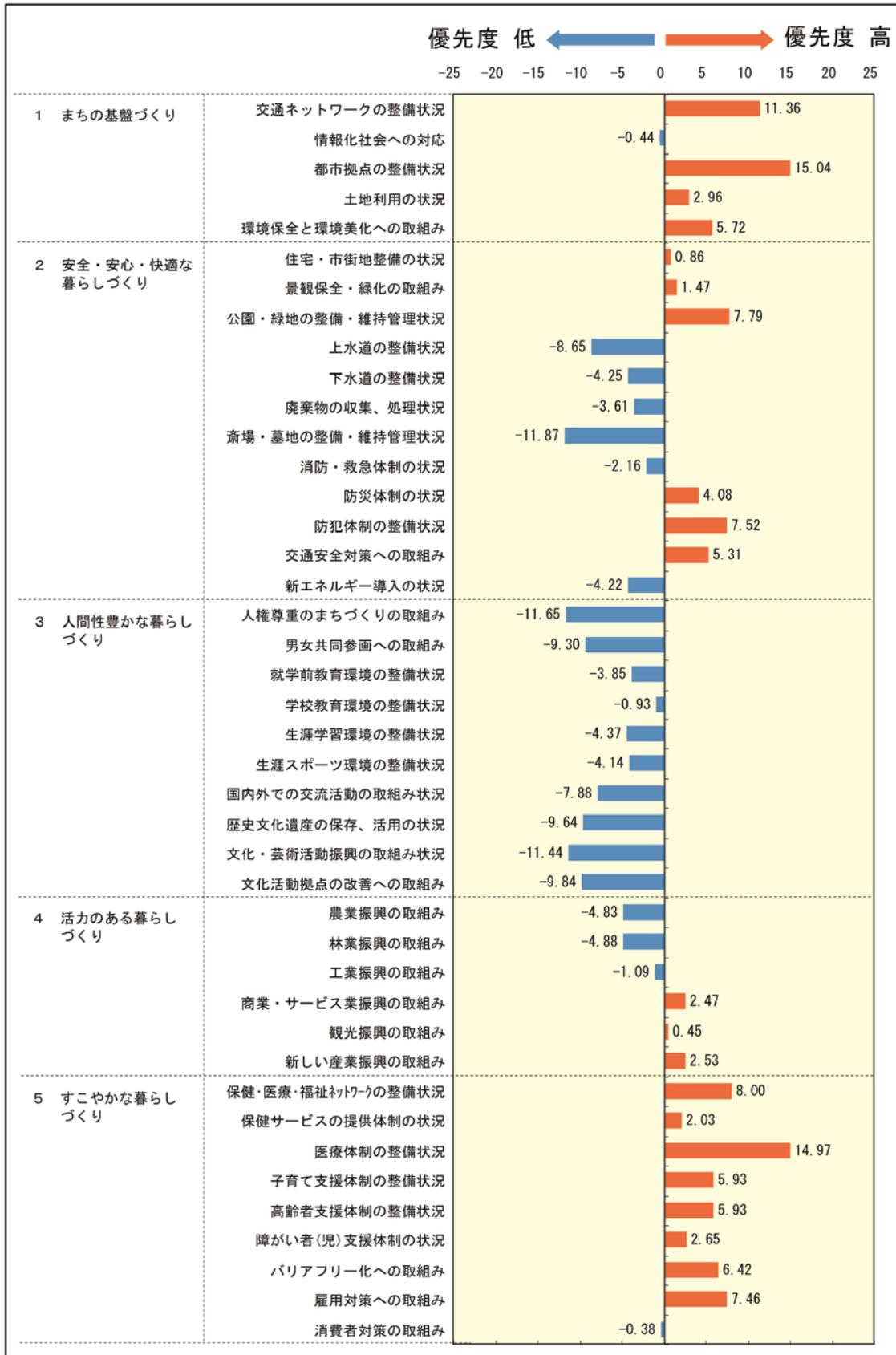
満足度と重要度の相関（優先度）



優先度高い		優先度低い	
1-3 都市拠点の整備状況	1-5 環境保全と環境美化への取り組み	2-7 斎場・墓地の整備・維持管理状況	4-1 農業振興の取り組み
5-3 医療体制の整備状況	2-11 交通安全対策への取り組み	3-1 人権尊重のまちづくりの取り組み	3-5 生涯学習環境の整備状況
1-1 交通ネットワークの整備状況	2-9 防災体制の状況	3-9 文化・芸術活動振興の取り組み状況	2-5 下水道の整備状況
5-1 保健・医療・福祉ネットワークの整備状況	1-4 土地利用の状況	3-10 文化活動拠点の改善への取り組み	2-12 新エネルギー導入の状況
2-3 公園・緑地の整備・維持管理状況	5-6 障がい者(児)支援体制の状況	3-8 歴史文化遺産の保存、活用の状況	3-6 生涯スポーツ環境の整備状況
2-10 防犯体制の整備状況	4-6 新しい産業振興の取り組み	3-2 男女共同参画への取り組み	3-3 就学前教育環境の整備状況
5-8 雇用対策への取り組み	4-4 商業・サービス業振興の取り組み	2-4 上水道の整備状況	2-6 廃棄物の収集、処理状況
5-7 バリアフリー <sup>(*)</sup> 化への取り組み	5-2 保健サービスの提供体制の状況	3-7 国内外での交流活動の取り組み状況	2-8 消防・救急体制の状況
5-4 子育て支援体制の整備状況	2-2 景観保全・緑化の取り組み	4-2 林業振興の取り組み	4-3 工業振興の取り組み
5-5 高齢者支援体制の整備状況	2-1 住宅・市街地整備の状況		3-4 学校教育環境の整備状況
	4-5 観光振興の取り組み		1-2 情報化社会への対応
			5-9 消費者対策の取り組み

満足度と重要度の相関（優先度）

（単位：評価点）



### 3 大淀町の特性と地域資源

新たなまちづくりの方向性を決定するにあたっては、本町の特性・資源を最大限に活かし、さらに伸ばしていくという考え方がたいへん重要です。基礎調査からみえてくる本町の代表的な特性・地域資源は、次のとおりです。

#### 特性・資源1

## 都心へのアクセスが容易なまち

近鉄下市口駅から特急利用で、大阪阿部野橋駅まで約1時間、近鉄奈良駅まで約1時間20分、京都駅まで約1時間30分です。車では、近隣の橿原市（橿原神宮前駅）まで約20分、大阪市内（市役所）まで約1時間15分となっており、様々な地域に通勤や通学が可能なまちです。また、吉野地域の玄関口として交通の要衝であることから、鉄道においても、車による移動においてもアクセス性が優れており、観光面などにおいて非常に有利な位置にあるまちといえます。

#### 特性・資源2

## 医療施設が充実しているまち

本町には、11の医療機関、7の歯科診療所と多くの医療施設が所在しています。（平成28年4月現在）

とりわけ、平成28年4月には福神地区に232の病床と25の診療科を持つ南奈良総合医療センターが開院しました。これまでは県立五條病院、町立大淀病院、吉野町国民健康保険吉野病院がそれぞれに地域医療を支えてきましたが、これら3つの公立病院をひとつの救急病院（南奈良総合医療センター）と2つの慢性期病院（五條病院、吉野病院）に役割分担の上再編されました。

これに伴い、永きにわたり地域医療を支えてきた町立大淀病院については閉院となりましたが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる新しい仕組みづくりがなされ、救急医療、災害医療対策、地域に密着した医療サービスが提供される病院として更なる強化が図られ、地域に大きく貢献することが期待されています。

また、町立大淀病院跡地については、福祉・健康を中心として公的機関の集約をはじめとした空間づくりが検討されています。

## 特性・資源3

**歴史・文化が息づくまち**

町内には、飛鳥時代に建立された古刹や修験道をはじめ、様々な時代背景を持つ寺社や仏像、古墳、遺跡、民俗行事などの歴史的遺産があります。また、ユネスコの世界無形遺産となっている能楽（猿楽）発祥の地のひとつとしても知られ、ちびっ子桧垣本座などの次世代への伝承活動にも熱心に取り組んでいます。こうした有形・無形の文化財・歴史的風土は町民共有の資産であり、まちの大きな魅力のひとつです。

## 特性・資源4

**快適住環境のまち**

世界遺産「吉野・大峯」の山並みを望み、清流吉野川の美しい景観と自然が身近に感じられる環境の中、本町には多くの優良な住宅地があります。充実した設備のあらかしホールや約 11 万冊の蔵書を有する図書館もあります。子育て支援も充実しており、保育所は町立・民間あわせて5箇所あり、待機児童は発生していません。スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、商店街とさまざまな買い物先が充実しています。さらに、歴史的に大きな災害が少ない地域であり、防災面においても町民の満足度は高いといえます。

また、こうした住環境を支えるものとして、自治会活動をはじめ、自主防災組織や消防団などの町民活動も活発に行われており、安全で快適な住環境が維持されています。

## 特性・資源5

**道の駅・吉野路大淀 i センターのあるまち**

道の駅・吉野路大淀 i センターは、年間 60 万人が立ち寄る、本町のランドマーク(\*)です。生産者、地域住民、観光客との交流・情報発信拠点として、安全・安心で新鮮な農産物の販売、イベントの開催等を実施しています。レストランでは地域の特産品を活用した新メニューの開発・提供に取り組んでいます。このように様々な役割を担う道の駅は、今後も大きな可能性を秘めた本町のかげがえのない財産です。

## 特性・資源6

## 「ひと」と「マンパワー」が充実したまち

本町では、様々な町民活動が活発に行われています。さらに、ボランティア活動やイベントの企画・実施・運営、サロン活動といった、行政に依存せず、自立した「ひと」の力と、協働のまちづくりにかせない素地・素養が十分に根付いているまちであるといえます。



## 第4章 新たな時代潮流

めまぐるしく変化する現代の社会・経済の中、本町を取り巻く環境は大きく変化し、多様性が増しています。新しい総合計画の策定にあたり、ふまえるべき主な時代潮流は次のとおりです。

### 時代潮流1

## 少子高齢化の進行と人口減少社会の到来

団塊の世代が全員後期高齢者になる「2025年問題<sup>(\*)</sup>」がクローズアップされています。社会保障費用の爆発的増加と世代間格差の問題がより鮮明なものになると考えられています。今後の大きな流れとして、止めることの困難な高齢化と、現在の少子化状態が今後も継続することで、人口構造の変化がより顕著になります。生産年齢層の急激な減少による労働力不足、社会保障費の現役世代の負担増などの影響が大きな問題になると予測されています。

このような状況に対応して、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立しました。若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現や仕事と生活の調和を図り、地域の特性を活かした魅力ある就業の機会を創出することなどを掲げ、地方での就労機会を増やし、希望をもてる社会が形成されるよう環境を整備するものです。本町においても、平成27年に策定した、大淀町地方創生総合戦略を推進していく必要があります。

### 時代潮流2

## 懸念される社会的格差の拡大

「収入などの格差が個人の努力では埋めがたいほど大きい社会である」と考える若者が多くなっている、という世論調査結果があります。これまでは個人の努力で埋めることができると思っていた格差が、近年急速に個人の努力では埋めがたいものになりつつあります。

また、平成26年7月に発表された厚生労働省の国民生活基礎調査では、およそ6人に1人にあたる16.3%の子どもが貧困状態にあるとされ、文部科学省の調査では、親の経済力と子どもの学力との相関関係が示されました。

このような状況をふまえ、様々な主体がそれぞれの知恵や技術、情熱を持って取り組むことにより、格差の固定化や貧困の連鎖を食い止めるための方策が求められています。

## 時代潮流3

## 情報通信技術と国際化の進展

情報通信技術の進展はとどまることなく、医療・福祉や教育をはじめ、今までとは異なる分野での活用も始まっています。例えば、介護ロボットの実用化や自動車の自動運転の実現に向けて、盛んに技術開発が行われています。介護ロボットは、深刻化している介護業界の人手不足の解決に、自動運転は、過疎地域の公共交通や、物流システムの大きな転換点になると期待されています。

また、情報通信技術の進展等で、人・物・情報の地球規模での交流・移動がさらに活発化することにより、グローバル化<sup>(\*)</sup>が進展しており、まちづくりの視点でも国際化への対応が必要になります。

さらに、公共データの活用促進、すなわちオープンデータ<sup>(\*)</sup>化の推進により、行政の透明性・信頼性の向上、国民参加・官民協働の推進、経済の活性化、行政の効率化を、国民、企業、行政が一体となって進められることが期待されています。ビッグデータ<sup>(\*)</sup>や機械学習<sup>(\*)</sup>の活用とあわせて、マーケティング<sup>(\*)</sup>手法を政策に取り入れることにより、今までとは違った形での行政サービスが可能となるため、これらの取り組みも求められています。

## 時代潮流4

## 多様な価値観と人権意識の浸透

同和問題・高齢者・障がい者・子ども・外国人・女性等に対する差別・偏見など、様々な人権課題を解消していくことの重要性があらためて認識されるようになってきています。まちづくりにおいては、ノーマライゼーション<sup>(\*)</sup>や共生化の理念に基づき、差別のない人権尊重のまちづくりをめざす必要があります。

また、同性愛や同性婚、結婚しない・子どもをつくらない生き方、男性の育児休業取得や専業主夫といった、今まで少数派であったがゆえ、声をあげることができず、うかがい知ることのなかった様々な価値観や考え方が表面化しています。

さらに、高齢者・障がい者をはじめとする社会的弱者も、希望を持って地域で生活していけるよう、バリアフリー<sup>(\*)</sup>などの都市基盤・生活環境分野の施策や保健・医療・福祉分野の施策と連携を図る必要があります。

## 時代潮流5

## 東京オリンピック、パラリンピック開催に向けた機運の高まり

平成 32 年に開催が予定されている東京オリンピック、パラリンピックに向けて、スポーツのみならず、経済や文化、観光、国際交流、教育など、様々な分野において機運が高まっています。

特に文化プログラムでは、我が国の文化財や伝統等の価値を世界に発信するとともに、文化芸術が生み出す社会への波及効果を活かして、諸課題を乗り越え、成熟社会に適合した新たな社会モデルの構築につなげていくことが求められています。「文化芸術立国」の実現のために、多様な文化芸術活動の発展や、歴史文化遺産の着実な保存・活用をめざし、組織委員会、関係省庁等と連携して、文化プログラムが推進されます。世紀のイベントとされる東京オリンピックをスポーツ振興だけではなく、文化的施策の絶好の機会ととらえ、有効に活用する取り組みが必要です。

さらに平成 29 年には本県において第 32 回国民文化祭、第 17 回全国障害者芸術・文化祭の実施が予定されており、平成 33 年には、本町町制施行 100 周年の記念行事も予定しています。歴史ある本町独自の文化政策をどのように次世代へつなげていけるかが大きな課題です。

## 時代潮流6

## 環境問題への取り組みの重要性の高まり

地球温暖化がさらに深刻化する中、平成 27 年に開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（C O P 21）においてパリ協定が採択され、すべての国が温室効果ガス<sup>(\*)</sup>削減目標を持って取り組みを進める国際的枠組みが成立しました。持続可能な社会の実現のため、国際公約として掲げた我が国の温室効果ガス排出削減目標を達成できるよう、一連の取り組みをさらに積極的に推し進めていくことが必要です。

また、平成 24 年に閣議決定された第四次環境基本計画においてめざすべき持続可能な社会とは、人の健康や生態系に対するリスクが十分に低減され、「安全」が確保されることを前提として、「低炭素」・「循環」・「自然共生」の各分野が、各主体の参加の下で、統合的に達成され、健全で恵み豊かな環境が地球規模から身近な地域にわたって保全される社会であるとされています。太陽光発電や木質バイオマス<sup>(\*)</sup>発電などの再生可能エネルギー<sup>(\*)</sup>の活用はひとつの大きな手法であり、地域特性を活かしながらその特徴や用途に応じて利活用することが求められています。

## 第5章 大淀町の課題

様々な基礎調査から見てきた本町におけるまちづくりの代表的な課題として、以下の課題があげられます。これらの課題を、克服するための施策を展開していく必要があります。

### 課題1

## 人口減少社会を見据えたまちづくり

本町においても本格的な人口減少局面に入りました。少子化・高齢化の流れは、高齢社会から超高齢社会へ移行するとともに、社会的に大きな転換点を迎えることとなります。今までのまちづくりにおいては、人口増加を前提とした考え方での取り組みでしたが、今後は、人口減少を視野に入れた施策を行っていく必要があり、ハード面のみならず、ソフト面での対策が求められています。

人口減少社会においては、年少人口、生産年齢人口の減少に伴い、労働人口の減少や税収減、経済活動の収縮といった問題が予測されています。このような状況を打破するためには、転入促進で人口の社会増を図ることや、出生率を向上させることで人口減少を食い止め、活力あるまちづくりに向けた施策にしっかりと取り組んでいくことが非常に重要です。

また、一方で、出生率が多少向上しても今後数十年間の人口減少は避けられないことから、社会システムの再構築を行うなど人口減少社会に現実的に対応するよう取り組みを進めることも重要であり、この二つの対応を複眼的に進めていくことが必要です。

### 課題2

## 高齢化問題を克服するための対策

今後、高齢化の進展に伴い社会保障費の高騰が見込まれています。平成28年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」においては、人口が減少する中で成長力を確保していくためにも、高齢者の就業率を高めていくことが重要である、と述べられています。そのためには、働きたいと願う高齢者の雇用継続の延長や定年引上げに向けた環境を整えるとともに、希望をかなえるための就職支援の充実などに取り組まなければなりません。

さらに、元気高齢者の活躍とともに、健康寿命の延伸や介護予防の取り組み、医療保険財政の改善も必要です。

## 課題3

**若者世代・子育て世代が将来に希望を持てる支援**

若者の結婚、出産といった希望をかなえるためには、安定した収入を確保する必要があります。企業誘致や起業支援といった取り組みをさらに発展させて、雇用の拡大や就労機会の増加をめざす必要があります。雇用面からだけではなく、晩婚化の流れを食い止めるべく、行政が積極的に結婚支援を行う必要もあります。

また、女性の社会進出や核家族化が進む中、家事や育児が女性にとって大きな負担となっているとも考えられることから、就労支援とあわせて、家事・生活支援や、より一層の子育て支援が今後必要になるものと考えられます。

## 課題4

**公共交通ネットワークの検討・構築**

本町の特性のひとつとして、交通利便性が高く都心へのアクセスが容易なまちであることがあげられ、自家用車や鉄道の最寄り駅、路線バスの最寄停留所を容易に利用できる方々には大きな利点となっています。

その一方で、人口減少や自動車交通への依存に伴って公共交通機関の利用率が低下していることから、一部路線バスでは廃止や縮小とサービス水準が低下しており、利用することができる交通手段が限られる人や子ども、高齢者には、町内の移動だけをみても、困難を伴うようになりつつあります。また、高齢化の進展や、高齢者世帯（『高齢者の単独世帯』・『高齢夫婦のみの世帯』）の増加などにより、通院や買い物などの日常生活における移動手段として公共交通を求める声が高まってきています。今後の人口減少や高齢化の進展をふまえると、問題が深刻化することが懸念され、公共交通ネットワークの検討・構築が必要とされています。

## 課題5

**下市口駅周辺(大淀交流拠点)の整備**

住民アンケート調査の結果におけるまちの各環境に関する満足度において、「都市拠点の整備状況」が最も低い結果となっています。とりわけ、本町の玄関口である下市口駅周辺は公共交通の結節点であるとともに、町内で唯一の商店街が形成されてきました。しかしながら、道路幅員が狭隘であり、商店街の空洞化も進行しています。駅前の賑わいを取り戻すためには、周辺の町立大淀病院跡地なども含めた一体的な整備が必要です。奈良県との包括協定の締結を足掛かりとして、着実に整備を進めていく必要があります。

## 第6章 計画策定の流れ

本計画の策定にあたっては、第3次大淀町総合計画基本構想と後期基本計画の達成状況をふまえて、直近の町民ニーズの動向や時代潮流等を十分に考慮して、新たな視点を取り入れていく必要があります。

本計画策定にあたってふまえるべき、要素・背景や検討ステップをまとめると、次のとおりです。

「第4次大淀町総合計画」策定にあたっての検討フロー図

